令和８年 11 月 13 日発行

みんなかがやく！（江東区教育委員会テーマ）
ブリリアンス Next Stage 第15号
～ありのままに今を輝く～
江東区立南砂中学校だより

50周年記念式典を終えて

校　長　　近藤　啓太

10月31日（土）雲一つない青空の下、記念式典を挙行しました。校内は生徒たちが心を込めて作成したタイルアートや作品で彩られ、温かな祝福の空気に包まれました。



○江東区長のお話（「三尺三寸箸」のお話を通して）

ある男が地獄と極楽の見学に出掛けたところ、食卓には豪華な料理が出され、1メートル以上もある長い箸が用意されていました。地獄では、「自分が食べよう」と必死に長い箸を動かしますが、自分の口には入らずイライラし、料理を奪い合って争っていました。極楽では、長い箸で向かい側にいる人に料理を食べさせ合っていました。互いに感謝し合いながら食事を楽しんでいたため、皆ふくよかで満ち足りていました。



自分ばかりを優先するのではなく、お互いに「どうぞ」と譲り合い助け合う姿勢こそが、平和で幸せな世界をつくる基礎となります。南砂中学校もそのような学校であり続けてほしい。

○PTA会長のお話（「当たり前」の中にある「ありがとう」）

「ありがたい（有り難い）」の反対言葉は「当たり前」である。日常の「当たり前」に隠れた感謝に気づき、支えられたときは「ありがとう」と伝え、誰かから感謝される人になってほしい。

○教育長の思い　≪学校日記から≫

全校生徒がひな壇で歌った嵐の「ふるさと」の合唱について、「生徒一人一人の輝く表情と最高の歌声に涙があふれた」と、生徒たちの姿とそれを支える地域・保護者の温かい愛への感動が綴られました。

学校日記



≪生徒会長お祝いの言葉から（一部省略）≫

学校のシンボルであるハナミズキの花言葉には、「感謝」や「返礼」という意味があるそうです。

今日、この五十周年という大きな節目に立ち、私たちは改めて、この南砂中学校を長年にわたり支えてくださった地域の方々、先生方、そして保護者の皆様への感謝の気持ちでいっぱいです。先輩方が一歩一歩築き上げてこられた伝統と歴史は、私たちが過ごす毎日の学校生活の中に、今も確かに受け継がれています。

また、学校生活の中だけでなく、地域の方々との温かい繋がりも私たちの誇りです。先日の団地祭では、地域の方々が私たちを温かく迎えてくださり、笑顔で言葉を交わす中で、南砂中学校がどれほど地域に愛されているかを深く実感しました。そして、行事や部活動などを通して、全員で心を一つにして響かせるエネルギーは、南砂中学校の大きな魅力だと感じています。これまで校風を築いてくださった先生方や先輩方の教えを胸に、私たちは誇りを持って日々前進しています。

本日の式典では、私たちの思いを込めて、全校で嵐の「ふるさと」と「平和の鐘」を合唱いたします。「ふるさと」に込められた、私たちが育つこの街や学校を愛する心、そして「平和の鐘」に込められた、これからの未来が穏やかで幸せであるようにという願いを、全校生徒の歌声に乗せてお届けします。

開校五十周年のスローガンは、「50年の伝統のバトンと共に彩る南中の新たな一歩」です。私たちは今日、先輩方が大切に繋いできてくださった、重みのある素晴らしいバトンをしっかりと受け取りました。これからは、私たちが南砂中学校の新しい歴史を創っていく番です。ハナミズキのように、学校に響く力強い活気のように、そして私たちの歌声のように、南砂中学校をさらに個性の光る色で鮮やかに彩りながら、みんなで足並みをそろえて、力強い「新たな一歩」を踏み出すことを約束します。





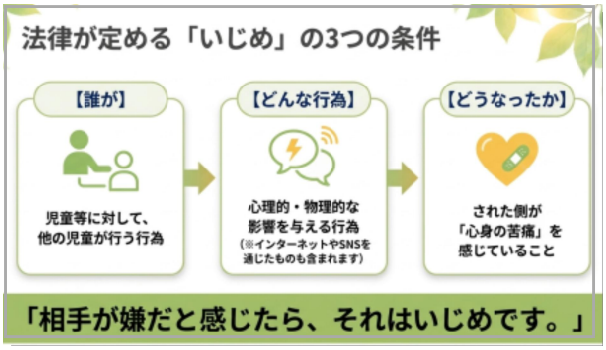
≪生徒の感想から≫
○50周年という大きな節目を迎えて、いつかクラスメイトと中学校の話題が出たときに盛り上がれるような思い出になったと思いました。
○50周年式典を通して、改めてこの南砂中学校は地域の方や先生方の支えそしてこの50周年まで引き継いでくださった先輩方のおかげで、50周年を迎えることができたと実感することができました。
○南中の先輩がたが繋いでくれた歴史を深く考えることができた。
○和太鼓が成功してよかった。
○歌で口を大きく開けることを考えた。

平和への一歩、安全・安心な学校生活を目指して

東京都では、6月と11月を「ふれあい月間（いじめ防止強化月間）」としています。これは、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に向けて、学校の取組を定期的に振り返り、改善していくためのものです。

夏休み前に、校長による、1年生を対象としたいじめについて考える授業を行いました。具体的な事例を取り上げ、何がいじめに当たるのかを考えてもらいました。最初は、「この生徒にも悪いところがあるのだから、いじめとは言えないのではないか」「相手に原因があるのではないか」と考える生徒もいました。

しかし、**いじめ防止対策推進法**では、いじめを受けた生徒が心身の苦痛を感じているものと定義しています。行為をした側に悪気があったか（なかったか）、相手に原因があったか（なかったか）は、いじめの判断には関係ありません。



その後の学校評価アンケートでは、1年生の中に**「いじめはどんな理由があってもしてはいけない」**という考えに反する回答をした生徒は一人もいませんでした。日頃の学校生活の中で、生徒たちがいじめについて考えを深めていることをうれしく思います。

しかし、**「いじめはいけない」**と知っていることと、実際にいじめをしないこと、そして、誰かがいじめられているときに行動できることは、それぞれ違います。

相手に不満があっても、傷つけたり、仲間外れにしたりしてよい理由にはなりません。自分の言葉や行動を振り返り、困っている人がいたら見て見ぬふりをしないことが大切です。

いじめのない学校とは、誰もが安心して自分らしく過ごせる学校です。互いの違いを認め、相手を尊重し、困ったときには安心して助けを求められる。そんな学校を、教職員だけでなく、生徒、保護者、地域の皆様とともにつくっていきたいと思います。

4アウト（お薦めの映画）

2月11日（祝）東京体育館にて行われた「チャレスポTOKYO」に体育講師のS先生が指導しているダンスチーム「サニーフラワー」が出演しました。　（令和6年度17号、令和7年2月18日のHPより）

このイベントで、障害者野球の映画の出演者（障害者）を募集していて、映画監督とお話したことがあります。感動の映画（相葉雅紀さん主演）が上映されています。「星の教室」（夜間中学校が舞台）もお薦めです。